

(第3種郵便物認可)

河合谷小の存続を求めます 臨時議会の行方を注目しましょう

学生のころ、大学の恩師が、日本教育史の中で特筆すべき学校があるかどうかを強調していました。一つは村の神社の神木を伐採して、もう一つは村人全員が五年間も禁酒をして建設した学校です。

その例から、学校とは、単に子どもが教育される場ではなく、少年時代の内面世界を育てたふるさとの中核であり、地域の人にとって文化と共同と活力の拠点である。だから、教師になったり、学校に寄せる地域の人たちの思いを十分に受け止めよと力説していました。私は肝に銘じ長年実践してきました。

小学校教諭の現職中、校門前の田で稲を育てる学習を地域の



「小」を守る大人の生き様

脈々と生かされているという。具体的には特認校として校区外からの希望者を受け入れ、緑したたる環境や少人数の教育の可能性を、河合谷地区全戸と保護者、教職員との協力で成果をあげつつあるという。「大」と「多」のみが教育にとって最大の価値でないことは誰にも分かります。

その河合谷小と築き上げてきた文化を、地区やPTAに相対無く、いきなり閉校、消滅させるといふことを報道や知人によって知らされ驚き、愕然としています。廃校の理由は誰も納得していません。

廃校はいつでも誰でもできます。すべての人の相談と英知を

農家の人の応援を得てやってきたのも、そうした地域の人の学校、教育に対する思いに応えるためでもありました。

全村の禁酒によって学校を建設したという前代未聞の、日本教育史上輝かしい快挙を成し遂げたのは、石川県津幡町の河合谷小学校です。

なぜ輝かしい快挙なのか？自己欲を捨てて子ども、学校を大回結して守ろうとする地域の大人たちの思いと生き様そのものが永続的な教育になるからです。

禁酒によって建設された学舎は今ももう無いが、そうした「無形文化財」に匹敵する村人の思いと歴史は、現在の学校に

金森 俊朗 (いしかわ県民教育文化センター所長)

結果としてこれまで以上に豊かな学校と地域にする姿こそ子どもに誇って見せたいものです。今、子どもに最も持たせたいのは、「どうせ頑張っても無理や」といつあきらめ、絶望ではなく、努力したら変えることができるという希望です。

講演で訪れた沖縄と北海道の小さな村と町の行政者や青年たちは、「小」であることの良さを引き出し、この町に育ったことを誇れるようにしようと懸命でした。津幡町が小さいが、大切な価値を持つ地域と学校を守って大切にすることを強く願っています。(毎月第2、4金曜日の掲載です)

みんなで「さわらび祭」を応援しましょう！

2007年(平成19年)9月20日(木曜日)

発言



小規模校存続
民意を聞いて

主婦 辻本 美樹 47
津幡町河合谷小学校が閉校？ 村民の禁酒で建てた母校と、高校時代に友人が誇りにして話してくれた記憶が残る。現在、進む過疎化に踏んばって、小規模特別認定校という大事な役割を果たしているはずと、議会を傍聴に行く。

何人もの議員が存続をと棄するも、有権者の過半数の反対署名さえ踏

みにじったポर्टピアと同様、全く聞く耳持たぬ町長・教育長。誇りある学校をつぶし、地域をおとしめる遊興施設を誘致する愚は民意とは思えない。

結論ありきで、選択の余地なく押し切られた地元は無念。いったいどこが「断腸の思い」なのか。

この春、新人女性議員が新風を吹き込んだが、再び、議論もされぬまま議員の数の圧力による採決が予想される。過去、ずっとこのように物事が決められてきたのだとしたら、本物の民意が実現するはずもない。

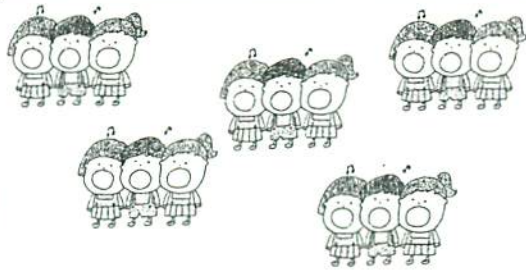
(金沢市)

河合谷地区振興会、河合谷小 PTA

河合谷小学校「さわらび祭」のお知らせ

平成 19 年 10 月 28 日(日)

- 09:00 開会式
- 09:05 音楽発表
- 09:40 舞台発表
- 10:30 総合学習発表
- 11:30 閉会式



特別認定校